

地域と生産者とJA広島市が一体となって食農教育活動

地域の小学校や保育園・幼稚園と地元農家、JA広島市などが協力して、子どもたちに農業を体験し学んでもらう食農教育活動。昨年は新型コロナウイルス感染拡大により、多くの行事が中止となりましたが、今年は感染防止対策をしたうえで、各地で体験が行われています。

豊平小学校・都谷こども園



田植え

北広島町の豊平小学校の5年生23名と都谷こども園の園児3名は、戸谷営農組合の管理する15㍍の水田で、営農組合の組合員やJAの佐々木宣昭営農指導員、農機センター門口満センター長から教わりながら「コノエモチ」の苗を植えました。田植え後は、児童らが米づくりの歴史や工夫など班で決めたテーマに沿って、営農組合の道川徳男組合長はじめ組合のメンバーや営農指導員などにインタビューを行いました。また、安佐南区の伴東小学校5年生55名は、地元の下向町内会の農家らとともに、町内会の森川石油店所有の水田で田植を体験。吉田耕司営農指導員から米の種類や苗の植え方、日々の管理などの説明を受けた後、町内会メンバーの指導を受けながら「ヒノヒカリ」「あきろまん」を植え付けました。

伴東小学校



可部小学校



狩小川保育園



安佐北区の可部小学校では5年生137名が、谷智明営農指導員から田植えの方法について指導を受けながら、校内の田んぼに田植をするとともに、一人ひとりが自分のペットボトルに苗を植え付け。今後生長していく様子を学校や自宅で観察していきます。

安佐北区の狩小川保育園は、年長の園児8名が、地元の藤本喜代子さんの田んぼでヒノヒカリを植え付け。年中・年少組さんが見守るなか、田植をがんばりました。

また、西区の大芝小学校の5年生99名は、校内に設置した2カ所の田んぼに、小田祐司営農指導員から教わりながらJA横川支店から提供されたヒノヒカリの苗を、一人2株ずつ手植えしていきました。

大芝小学校



矢賀小学校



地域の特産を学ぶ

東区の矢賀小学校は、地元の伝統野菜「矢賀うり」について学ぶ活動を毎年行っています。今年も、地元生産者の飯田澄雄さん、JAの向井健営農指導員から指導を受けて、2年生53名が矢賀うりの植付けを行いました。生育の様子を観察しながら収穫を楽しみに育てます。

可部保育所



サツマイモ植付け

安佐北区の可部保育所の園児55名は、香川義元さんの圃場にサツマイモの苗1,000本を植え付けました。地域住民なども協力して行う行事は今年7年目。例年は分園のどれみふぁ保育園の園児も参加しますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に引き続き人数を制限して実施しました。今後、生育状況を観察しながら、10月末に収穫する予定です。